

# 脱炭素社会 どう実現

## 市職員研修 カードゲームで疑似体験

カードゲームを通じてゼロカーボンの取り組みを疑似体験する諏訪市の職員たち



### 諏訪

諏訪市は12日、カードゲームを通じてゼロカーボンに理解を深める職員研修を市役所で開いた。24人が参加し、環境に配慮した取り組みが20年後の未来にどう影響するかを疑似体験。ゼロカーボン実現のための行動と、多様な人と連携して取り組む重要性を確認した。

ゼロカーボンは温室効果ガスの排出量削減と吸収量増加を組み合わせて、排出量を実質ゼロにすること。同市は2

022年3月にゼロカーボンシティ宣言をし、脱炭素社会の実現に向けて取り組んでいる。今回の研修ではカードゲーム「2050カーボンニュートラル」を取り入れた。

職員は電力会社、食品メーカー、環境NPOなど12組織に分かれてゲームを開始。それぞれ定められた排出量や資金のゴールを目指して「次世代半導体の採用」「断熱住宅の設計」などの事業活動と、「公共交通機関の利用」「エアコンの風力を弱に設定」といった

市民活動を進めた。

同ゲーム公認ファシリテーターで講師を務めた茅野貴之さんは、組織の取り組みの選択によって排出量や吸収量がかわっていく様子を解説。「実現の難しさはどこにあるのか。どんな行動をとっていいか。どんな行動をとっていいか。どんな行動をとっていいか。どんな行動をとっていいか」と呼び掛けている。

農林業でゴールを目指した保育士の伊藤乃梨子さんは「市民活動や他業種とのつながりも重要だった」と感想を話した。